



卓也さんのミニトマト



大黒柱として石橋家を支える卓也さん。今年の長雨は努力で解決出来る問題ではないので堪えます。



おてんと様が出てこないで、なかなか実が赤くなりません。トマトもおてんと様を欲しています！

★おてんと様、出てきて！

卓也さんは石橋家の3代目。おかげさま農場では若手ながら、春の人参部長もしています。そんな卓也さんは、8月までの高柳場長のバトンを受け継ぎ、9月からミニトマトを出荷しています。

畑にはお父さんが30年以上も作り続けている堆肥を入れ、実なりが良くなるようグアノというリン酸分が多い古代の化石のような肥料を使うことで、毎年、美味しいミニトマトを作ってきました。秋のトマト作りはうどん粉病などの病気はもちろん虫がたくさんつきます。葉っぱはもちろん実の中にまで虫が入ってくるのです。しかし卓也さんは「それは仕方ないこと。手でとって捕まえれば良いからね」と言います。

それより今年は8月頭までの猛暑の影響で花が一気に咲き、株に疲れが出てしまい、さらに実が割れるという高温障害も出ました。その後に始まった雨天続きでなかなかトマトは赤くなりません。「僕の力ではおてんと様は出せないから、こればかりはしょうが無い。待つしか無いね」。お客さんも大変でしょうが、もっと大変なのが出荷したくても出来ない生産者。農作物は生き物であり命であること。命はおてんと様の力によって育てられているということ、しみじみと感じる農業の現場です。

- ・ミニトマトは晴天が続けば量も出せますが、雨天が続くと少しずつの出荷となります。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎小松菜は9月19日から出荷予定です。

◎新ごぼう、新さつまいも、新里芋、生落花生など秋の味覚が出揃ってきました。